

国際会議：女性のエンパワーメント

政治、経済、文化から探る、ヨーロッパと日本の、
女性のエンパワーメントの挑戦と可能性

この国際会議は、社会における女性のエンパワーメントについて、ヨーロッパと日本の比較に基づいた対話を行います。日本と欧州諸国（スペイン、オランダ、ノルウェー及びドイツ）から、男女を問わず、学界、政策提言・立案、メディア、コンサルタント、CEOマネジメントと多様なバックグラウンドを持つ14人の識者が集まり、政治・経済・個人の3つの視点から各国の取り組みの現状と今後の可能性について議論します。

主催：セルバンテス文化センター、国際交流基金(JF)

共催：スペイン大使館、オランダ大使館、ノルウェー大使館、エーベルト財団(ドイツ)、85 Broads、日本経済新聞社

協力：社団法人企業メセナ協議会

会場：セルバンテス文化センター 〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9、Tel:03 5210-1705

日時：2010年6月12日(土) 9:30～17:00

言語：日本語、英語、スペイン語（同時通訳）

詳しくは 別紙及び、www.cervantes.jp をご覧ください。

メディア関係者の方のお問い合わせ先：

スペイン大使館 玉城瞳子

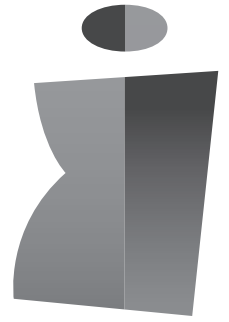
Tel. 03 5563 1456

Fax: 03 5563 1458

toko.tamaki@mpr.es

国際会議：女性のエンパワーメント

政治、経済、文化から探る、ヨーロッパと日本の、 女性のエンパワーメントの挑戦と可能性



この国際会議は、社会における女性のエンパワーメントについて、ヨーロッパと日本の比較に基づいた対話を行います。日本と欧州諸国(スペイン、オランダ、ノルウェー及びドイツ)から、男女を問わず、学界、政策提言・立案、メディア、コンサルタント、CEOマネジメントと多様なバックグラウンドを持つ14人の識者が集まり、政治・経済・個人の3つの視点から各国の取り組みの現状と今後の可能性について議論します。

主催： セルバンテス文化センター、国際交流基金(JF)
共催： スペイン大使館、オランダ大使館、ノルウェー大使館、エーベルト財団(ドイツ)、85 Broads、日本経済新聞社
協力： 社団法人企業メセナ協議会
会場： セルバンテス文化センター 〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9、Tel:03 5210-1705
日時： **2010年6月12日(土)** 9:30~17:00
言語： 日本語、英語、スペイン語 (同時通訳)

会議は、「男女平等に向けた改革」「女性のエンパワーメントがもたらす経済的効果」「女性のエンパワーメント、社会のエンパワーメント」の3つのパネルから構成されます。

セルバンテス文化センター事務局長のカルメン・ペレス・フラヘロ氏が司会を務めるパネル1では、政策や政治プロセスについての議論を行います。パネルには、サラマンカ大学の社会学教授で国連女性差別撤廃委員会委員のソレダ・ムリージョ・デ・ラ・ベガ氏、オランダの育児部門理事長で元(社会・雇用省)解放政策局長・国会議員のイナ・ブラウワー氏、ドイツの政治学者で「ジェンダー事務所」の創立者レギーナ・フライ氏、実践女子大学教授で内閣府男女共同参画会議議員の鹿嶋敬氏が参加します。

経済と企業活動に焦点を当てたパネル2は、英国エコノミスト誌東京支局長でジャーナリストのヘンリー・トリックス氏が司会を務めます。日本コーン・フェリー・インターナショナル代表取締役会長の橋・フクシマ・咲江氏、日産自動車のダイバーシティ ディベロップメントオフィス室長の高橋美由紀氏、同志社大学教授で『女女格差』など多くの著書のある橋本俊詔氏、そしてノルウェー企業のデットノルスケ ベリタス(DNV)日本支社長のヨハン・ペター・トウトウレン氏による発表が行われます。

パネル3では、司会者にシンクタンク・ソフィアバンク副代表の藤沢久美氏を招き、保育や教育、地域社会の活性化を中心に社会全体での女性エンパワーメント支援について検討します。パネルには、NPO法人ファザーリング・ジャパンの代表、安藤哲也氏、オランダのワーキングマザーを支える雑誌『Lof』創立編集者のヨランダ・ホルウェルダ氏、ノルウェーのオンミ社CEOのグリー・ヴィーグレ氏が参加します。

最後に参加者全員が出席する総括ラウンドテーブルが行われます。議長を務めるのは、テレビジョン・エスパニョーラ(TVE:スペイン国営放送局)のアジア太平洋支局長のロサ・マリア・モジョ氏です。

詳しくは www.cervantes.jp をご覧ください。

メディア関係者の方のお問い合わせ先：
スペイン大使館 玉城瞳子
Tel. 03 5563 1456
Fax: 03 5563 1458
toko.tamaki@mpr.es

国際会議：女性のエンパワーメント

パネリスト

カルメン・ペレス・フラヘロ

セルバンテス文化センター事務局長／スペイン

1975年から1983年まで国土局を始めとする幾多の省庁・行政機関にて管理職を歴任、1989年から1993年までは女性省副総長を務める。5年滞在したアメリカでは様々な教育プログラム、コースに参加。1998年にセルバンテス文化センターに入局、企画管理局長を務めた後、2009年に現在の事務局長に任命される。

ソレダ・ムリージョ・デ・ラ・ベガ

サラマンカ大学教授、国連女性差別撤廃委員会委員／スペイン

サラマンカ大学社会学教授として、同大学の女性学研究所を創立。男女平等と女性の政治参加について広範な執筆活動を行う。著書は、家庭生活に焦点をあてた『El mito de la Vida Privada(家庭の神話)』や『Relaciones de Violencia(バイオレンスに関する考察)』など。2004年から2008年まで、スペインの男女平等事務局長を務め、近年スペインで成立した男女平等法やジェンダー暴力禁止法の法案作成にも大きく貢献した。

イナ・ブラウワー

育児部門理事長、ダイバーシティ問題コンサルタント、作家／オランダ

弁護士を経て1989年に国会議員に当選、1990年には国会会期中に出産した最初の国会議員となった。1995年から2003年までは、社会・雇用省で解放政策局長を務める。2003年には労働市場における女性の地位についての著書、『ガラスの天井—トップの女性たち』を出版した。2003年以降は、ダイバーシティ、社会問題、政府改革といった問題に関し、民間・公共セクターの上級顧問を務める。2008年にはオランダで急成長を遂げている育児部門代表 に選出され、保育と教育の将来を見据えた提言の策定に取り組んでいる。

レギーナ・フライ

「ジェンダー事務所」創業者／ドイツ

政治学者であり、ドイツのベルリンに拠点を有するコンサルタント企業「ジェンダー事務所」(Gender Büro)のトップを務める。ジェンダー平等に関するコンサルテーション、応用研究および研修を専門とする。多くの大学で講師を務めた経験があるほか、ジェンダー問題の主流化や、ジェンダー問題の予算化、ジェンダーに関する研修や理論、ダイバーシティマネジメントについての執筆活動も行ってきた。

鹿嶋敬

実践女子大学教授／日本

日本経済新聞社にて、編集局生活家庭部長、編集局次長兼文化部長、論説委員、編集委員などを務めた後、2005年4月から実践女子大学人間社会学部教授に就任。最近のテーマは、男女共同参画社会の形成、企業のダイバーシティの取り組み、ジェンダー関連政策の展開。内閣府男女共同参画会議議員、次世代のための民間運動〜ワーク・ライフ・バランス推進会議代表幹事、女性労働協会理事、ワーキングウーマン・パワーアップ会議代表幹事、などを兼務。主な著書に『男と女 変わる力学』、『男の座標軸』、『男女摩擦』、『男女共同参画の時代』、『恵里子へ 結納式の10日後、ポリビアで爆死した最愛の娘への鎮魂歌』など。

ヘンリー・トリックス

英国エコノミスト誌東京支局長／英国

ロンドンでフィナンシャル・タイムズ紙の記者、メキシコでフィナンシャル・タイムズ支局長を務め、米国やメキシコ、中米でロイターに勤務。2006年に1月に資本市場セクション編集者として英国エコノミスト誌に入社。2006年9月に金融セクションの編集者となった後、2009年8月には東京支局長に就任。CNBCやBBCワールドサービスなどのインタビューを多数受ける。

橘・フクシマ・咲江

日本コーン・フェリー・インターナショナル代表取締役会長／日本

日本で活動する米国、欧州、日本の多国籍企業に対する、ヒューマンキャピタルに関するコンサルティングサービスの提供を専門とする。1995年から2007年まで、コーン・フェリー・インターナショナルの米国本社取締役も務める。経済同友会の幹事のほか、日本取締役協会の幹事にも就任。また、女性として初めて、花王、ソニー、ベネッセコーポレーションの取締役に就任し、ブリジストンの取締役も務める。ダイバーシティをはじめとする世界的な人材関連問題についての講演や執筆の経験も豊富で、『売れる人材』など複数の著書がある。2008年には、『ビジネスウィーク』誌の「世界で最も影響力のあるヘッドハンター・トップ50人」(うち女性は9人、日本人はフクシマ氏のみ)に選ばれた。

高橋美由紀

日産自動車ダイバーシティ ディベロップメント オフィス室長／日本

1985年に日産自動車に入社。1991年に欧州日産自動車会社に出向し、経営企画部に勤務。1994年から1999年までは韓国サムソンプロジェクトの営業チームに所属し、1999年よりカルロス・ゴーン最高執行責任者のアシスタントを務める。2001年に北米日産に異動となり、インフィニティブランドのマーケティングを統括。2004年に帰国後、マネージャーやマーケティングディレクターを経て、ダイバーシティ ディベロップメント オフィスの室長に就任。

国際会議：女性のエンパワメント

パネリスト

橘木俊詔 同志社大学教授／日本

経済企画庁のミレニアム・プロジェクト(高齢者の雇用・就労を可能とする経済社会の実現のための大規模な調査研究)の理事長を務めるほか、フランス国立統計経済研究(INSEE)、経済協力開発機構(OECD)、スタンフォード大学、エセックス大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、さらには経済企画庁、日本銀行、財務省、通商産業省など多くの政府研究機関にて客員および常勤として数々の役職を歴任。著書に、『女女格差』、『現代女性の労働・結婚・子育て』、『アメリカ型不安社会でいいのか 格差・年金・失業・少子化問題への処方せん』、『日本の貧困研究』、『企業の一生の経済学』、『日本経済の実証分析』など。

ヨハン・ペター・トウトウレン デット ノルスケ ベリタス(DNV) マリタイム日本支社長／ノルウェー

1983年に船舶技師としてノルウェー王立海軍兵学校を卒業後、海軍士官として7年間、さまざまな役職を経験。1990年にDNVに入社した当時は、海軍少佐の地位にあり、技師長としてフリゲート艦に勤務した。DNVに入社以降、職歴の半分を極東で過ごし、技術職および管理職の双方を経験。韓国での6年半の勤務を経て2000年に来日、神戸センターの統括者として2年間勤務した。その後5年にわたり、オスロの本社の新造船部のトップを務める。タンカー事業担当ディレクターを1年半務めた後、家族とともに日本に戻り、2008年にデット ノルスケ ベリタス(DNV)日本支社長に就任。現在は、在神戸・大阪ノルウェー王国名誉総領事館の名誉総領事も務める。

藤沢久美 シンクタンク・ソフィアバンク副代表兼共同創設者／日本

国内外の投資運用会社勤務を経て、1996年に日本初の投資信託評価会社を起業。99年同社を世界的格付け会社に売却後、2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、副代表。03年社会起業家フォーラム設立、副代表。07年ダボス会議を主宰する世界経済フォーラムより「ヤング・グローバル・リーダー」に選出される。法政大学大学院客員教授、金融審議会委員など公職も多数兼務。NHK教育テレビ「21世紀ビジネス塾」のキャスターを3年間務め、以来、700社を超える全国の中小・ベンチャー企業の取材に取り組み、現在は、ネットラジオ「藤沢久美の社長Talk」やBS11「藤沢久美のJUST in!」など、様々な分野のリーダーとの対談を通じて、社会の課題を考えるヒントを発信している。著書は『なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか』(ダイヤモンド社)、『投資信託主義』(角川|oneテーマ21)など多数。

安藤哲也 ファザーリング・ジャパンの創業者兼代表／日本

二男一女の父親。出版社、書店、IT企業など9回の転職を経て、2006年に父親支援の同NPOを設立。「育児も、仕事も、人生も、笑って楽しめる父親を増やしたい」と、講演会・セミナーや絵本の読み聞かせ活動で全国を飛び回る。東京都「子育て応援とうきょう会議」実行委員。著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)、共著に『パパルール～あなたの家族を101倍ハッピーにする本』(合同出版)、翻訳絵本に『ぼくとおとうさんのテッド』(文溪堂)などがある。

ヨランダ・ホルウェルダ 『Lof』誌創立編集者／オランダ

共働き夫婦がキャリアと家庭生活の両立により前向きに取り組めるようにするためにはオランダの文化を変えることが必要だと考え、2007年10月に、キャリア志向の高いワーキングマザーを応援する『Lof』を創刊。『Lof』は「オランダ・ワーキングマザー・オブ・ザ・イヤー朝食会」など多くのイベントを開催してきた。また、「働く親に最適な企業70社」の調査では、ワーク・ライフ・バランスを推進しつつダイバーシティと社会統合も実践しているオランダ企業を多数紹介し、大成功を収める。2009年に男女同権を推進した者にオランダ政府から贈られるヨーク・スミット賞を受賞。

グリー・ヴィーグレ オンミ社CEO／ノルウェー

ノルウェー経営大学卒業後、1990年に会計事務所のGG-Teamを創立、同社は2004年にAmestoに売却される。2008年6月まで、財務管理などを専門とするノルウェー最大のアウトソーシング企業として五指に入る企業で、ノルウェーの大都市で9つの部門と従業員200人を有するAmesto Business Partnerにて、代表取締役として勤務。2008年 Onmii(オンミ社)を設立、社長に就任。

ロサ・マリア・モジョ テレビシオン・エスパニョーラ(TVE:スペイン国営放送局) アジア太平洋支局長／スペイン

1989年にレポーターとしてTVEに入社し、カタルーニャ地方局で編集、討論やニュースの司会を務め、様々な国際事業に関わる。2001年にアフガニスタン特派員として赴任。その後、ニューヨーク特派員を6年間務めた後、アジア太平洋特派員となる。学問と広範なジャーナリズムの間の隔たりを埋めることに関心を寄せ、1991年から1995年まで、バルセロナ自治大学でジャーナリズムの教授を務めた。

プレス用 出欠回答用紙

(Fax : +81 3 5563 1458, 締切日6月8日)

国際会議:女性のエンパワーメント

政治、経済、文化から探る、ヨーロッパと日本の女性のエンパワーメントの挑戦と可能性

日時: 2010年6月12日(土) 9:30~17:00 (受付開始8:30-)

会場: セルバンテス文化センター東京 オーディトリウム地下1階(千代田区六番町2-9)

主催: セルバンテス文化センター、国際交流基金

共催: 在京スペイン大使館、在京オランダ大使館、在京ノルウェー大使館、エーベルト財団(ドイツ)、85 Broads、日本経済新聞社

協力: 社団法人企業メセナ協議会

御出席

御欠席

御芳名:

御所属/御媒体名:

御住所:

御電話番号:

御連絡先:

(メールアドレスまたはFAX):

※パネリストに取材を御希望される方は、パネリスト名に○及び取材形式・取材言語を御記入下さい。スケジュール調整後、追ってご連絡申し上げます。

○ ／ —	パネリスト	取材形式 スチール/ TVカメラ/ペン	取材言語 (西・英・日)
	カルメン・ペレス・フラヘロ セルバンテス文化センター事務局長 (スペイン)		
	ソレダ・ムリージョ・デ・ラ・ベガ サラマンカ大学教授、 国連女性差別撤廃委員会委員(スペイン)		
	ロサ・マリア・モジョ テレビジョン・エスパニョーラ (TVE:スペイン国営放送局) アジア太平洋支局長(スペイン)		
	イナ・ブラウワー 育児部門理事長、ダイバーシティ問題 コンサルタント、作家(オランダ)		
	ヨランダ・ホルウェルダ 『Lof』誌創立編集者(オランダ)		
	ヨハン・ベター・トウトウーレン デット ノルスケ ベリタス(DNV) 日本支社長(ノルウェー)		
	グリー・ヴィーグレ オンミ社CEO(ノルウェー)		
	鹿嶋敬 実践女子大学(日本)		

○ ／ —	パネリスト	取材形式 スチール/ TVカメラ/ペン	取材言語 (西・英・日)
	橋・フクシマ・咲江 日本コーン・フェリー・インターナショナル 会長兼代表取締役社長(日本)		
	高橋美由紀 日産自動車ダイバーシティ ディベロップメント オフィス室長(日本)		
	橋木俊詔 同志社大学教授(日本)		
	藤沢久美 シンクタンク・ソフィアバンク 副代表兼共同創設者(日本)		
	安藤哲也 ファザーリング・ジャパン 創業者兼代表(日本)		
	レギーナ・フライ 「ジェンダー事務所」創業者(ドイツ)		
	ヘンリー・トリックス 英国エコノミスト誌東京支局長(英国)		

取材の日程は後日ご連絡致します。ご連絡は下記の連絡先までお願い致します。

お問合せ: スペイン大使館広報室 Tel: 03-5563-1456 Fax: 03-5563-1458
玉城 toko.tamaki@mpr.es